

用語について (V)

山口青邨

次に外國語に就てである。

この場合もどうしても外國語でなければ効果が出ないといふ時に限り使つてもよい。私の作品にも外國にゐた頃は外國語のはいつてゐるのがかなりあるが、決してむづかしいものは使はなかつた。

雪の上にジルベスターの仮面捨つ 青邨

男女私語カスターニエの花こぼれ 同

プロムナード・コンツェルト秋の山近く 同

ジルベスター (除夜祭)、カスターニエ (橡、伯林の街路樹)、プロムナード・コンツェルト (野外演奏) は獨逸語である。

ハーブひく漁港の船の夏至白夜 蛇笏

豪華古るラツキー・シツプ深雪晴 同

退屈なガソリン・ガール柳の芽 風生

コプエルの噴きこぼれたる濃龍瞻 同

啓蟄やランチタイムは帽を被らず 同

ハーブ (豎琴)、ラツキー・シツプ (幸福の船、飾物)、ガソリン・ガール (自動車の給油場の女)、コプエル (キャンプ用具)、ランチタイム (晝食時) ——どうしてもかういふ字を使はないと、感じが出ないのである。